

【試合の結果】

特別全国障害者スポーツ大会中国・四国ブロック予選会バレーボール競技（精神障害者部）は令和5年4月29日～30日、島根県の安来市民体育館にて行われました。

山口県代表チームの「全国大会を目指す」戦いがついに幕を開けました。初戦の相手は徳島県。第1セットは動きの硬さが目立ち、自分たちの力を発揮できないまま、中盤までは相手のミスに助けられる展開となりました。徐々に緊張がほぐれた終盤より本来の攻撃が決まりはじめ、2セットを連取し勝利しました。スコアこそ25-13、25-11でしたが、夕食後のミーティングでは監督より「優勝しか考えていない、明日は徳島との反省点を活かしながら今日以上の試合をしよう。」と激励され、チームが一段と引き締まりました。

2日目準決勝の相手は昨年度準優勝の岡山県。前日のミーティングのおかげか、どのチームより早く会場入りしアップしたおかげか、試合の入りから全力で臨み、第1セットを25-12と先取しました。第2セットは相手の粘り強い守りにあうも25-17で勝利できました。

ついに決勝は前年度優勝の広島市。新セッターを中心に長身のアタッカー陣が多彩な攻撃を仕掛けてくる広島市に対し、オーソドックスな攻撃と粘り強い守りを中心とした山口県チームの試合は、第1セットから互いに流れを渡さない緊迫の展開となりました。終盤までもつれましたが、惜しくも24-26と落としてしまいました。続く第2セットも広島市が優勢のまま中盤までリードを許す展開となりました。さらにケガによる選手交代を余儀なくされ、チームに不安なムードが流れる中、交代選手の活躍で流れが変わってきました。最後に交代選手のスパイクが決まり、25-23と取返しフルセットへ持ち込みました。運命の最終セットは、第2セットの流れのまま攻撃が決まり、序盤は13-8とリードしてのコートチェンジでしたが、サーブレシーブが崩れ連續失点し13-14と逆転を許してしまいました。その後はサイドアウトの応酬となり、点差がつかぬまま終盤へ。最後はエースの狙いすましたドライブサーブが決まり25-23と激闘を制すことができました。

選手、スタッフに応援団を加え涙と抱擁の感動の幕切れとなりました。8年ぶり念願の全国大会（鹿児島）への切符をつかみとることができた中国・四国大会でした。

R5/6/7 山口県精神障害者バレーボール連盟 倉元泰彦